

『発展と創造』～平成 18 年度総会を前にして～

この協議会便りが掲載されるコンサルタンツ北海道 第 109 号は 6 月 30 日が発行予定日ですが、原稿の締め切りが 5 月 19 日となっており、我々が 5 月 25 日に開催を予定している平成 18 年度の総会の前に原稿を提出しなければなりません。

ということで、今年度総会で提案する予定の「平成 17 年度活動結果と決算内容、平成 18 年度の活動計画と予算(案)」について、総会ですんなりと承認されているか、紛糾して否決されているか、などは気にせずに、現時点で確認・協議されている内容について簡単に紹介します。

1 平成 17 年度の青年技術士協議会

【各種研修会】

平成 17 年度の青年技術士協議会の活動を簡単に振り返ると、GW 明けすぐの 5 月 12 日に総会・春期研修会が開催され、(株)北海道日本ハムファイターズファン・コミュニティーサービス部部长 土田光男さんの講演「地域密着の球団づくり」から、参加者一同、一昨年度末の日ハムの激闘と、その舞台裏の真実に、感動の涙を流して幕を開けました。

その後の 6 月 27 日、新幹事となった大槻さんにより、「青技協新体制の結束を図る！」という目的で、日ハム(ダルビッシュ) vs 西武(松坂)の観戦ツアーが企画・実施されています。(青技協における大槻幹事の位置づけが決まった事業です)

夏期研修会(8 月 26 日)では、「戦略で拓く未来」をテーマに、北海道経済部商業経済交流課 貿易経済交流グループ主査 加藤浩さんから「北海道の海外戦略～海外との経済交流推進方策について」という話題提供を頂いた後、技術士の海外交流・ビジネス展開をテーマに講演を公募した「北海道企業とサハリンビジネス」(田中輝幸さん)、「一技術士として国際業務に関与して」(大塚夏彦さん)が紹介され、さらに北海道大学大学院情報科学研究科 山本強教

授より「IT 社会の未来」に関する講演を頂きました。

秋期研修会(11 月 30 日)では、テーマを「食の安全とその技術、倫理について」とし、(有)らうす海洋深層水の湊屋稔さんから「海洋深層水の水産物への利用について」、北海道酪農畜産協会総括畜産コンサルタント企画情報部長 小野地一樹さんから「技術と食の安全について」、の 2 つの講演を頂き、その後は、北海道大学倫理学講座助教授 蔵田伸雄さんをオブザーバーとして、湊屋さん、小野地さんと会場の参加者の間で「技術者の倫理」に関する意見交換を行いました。

【危機管理研究会】

平成 16 年度からの 2 年間で取り組んだ「危機管理研究会」(リーダー：天沼幹事)は、延べ 12 回を超える会議を経て、ついに、「(仮称)危機管理研究会提言書」をとりまとめるに至っています。

【全国本部・支部との交流】

平成 16 年度の日本技術士会全国大会(北海道)に端を発した青年技術士系組織が主催する分科会は、平成 17 年度の全国大会(九州、10 月 19～20 日)にも引き継がれましたが、当会からは会長の椿谷が参加しました。

その後開催された(株)日本技術士会中部支部・中部青年技術士会・創立 20 周年記念例会(名古屋、2 月 25 日)には副会長の丹治と私(今野)が参加し、北海道とは異なる中部支部の青年技術士間の連帯力を肌で感じるとともに、北海道から「全国各地の青年技術士との継続的な交流のあり方」についてのおおまかな構想を提案しました。

2 平成 18 年度の青年技術士協議会

【今年度の取組方針】

今年度、会長の椿谷が掲げるテーマは『発展と創造』で、例年と同じく、総会と春期研修会是一体的に開催しますが、「全国大会(北海道)」に始まった取

り組み（先人技術者、現在の課題解決、全国交流）を
発展させ、より創造的に取り組む”ため、夏期・
秋期の研修会は2つの研究会に衣替えし、全国の青
年技術士系組織との交流を継続・強化していきます。

【総会・春期研修会】

総会・春期研修会（担当責任者：副会長 正岡）
は、以下の内容で実施する予定となっています。

日 時：平成18年5月25日(木)
15:00～18:30
場 所：しんきんけんぽ会館
内 容：
●総会（15:00～15:50）
・平成17年度活動報告、平成18年度活動計画
●春期研修会（16:00～17:00）
①基調講演
『Succession』
～環境を軸とした北海道のありかたと
技術士の役割～
（財）北海道環境財団理事長、
（財）日本グラウンドワーク協会北海道支部長
辻井 達一 先生
②質疑応答・意見交換
●懇親会（17:00～18:30）
・新入会員の紹介、情報交換会など

【2つの研究会】

2つの研究会は、①技術士のためのテクニカル・
スクール的な“表現技術の向上”を目指す（担当責
任者：副会長 丹治）、②北の技術を語り継ぎながら
“北海道の技術の承継”を目指す（担当責任者：副会
長 谷村）、ことを方針とし、具体的なテーマや内容
は、幹事だけではなく、epo等で公募しながら決め
て、年3回程度開催する予定です。

これまでの幹事内部協議で、研究会①に関しては
“コミュニケーション、ベンチャー、倫理”などのテ
ーマや招聘候補者が、研究会②に関しては、“道産酒米
（吟風）開発、青函トンネル掘削、世界初のハイブリッ
ド列車開発”などの優れた技術実績や招聘候補者が、
それぞれ話題にのぼっています。

【全国の青年技術士との交流】

全国の青年技術士との交流については、全国大会

参加と、中部支部で北海道から提案した継続的な交
流構想の具体化に取り組む予定です。

①全国大会（東京）参加

日本技術士会青年技術士懇談会より要請されてい
る「技術士全国大会（東京、9月6日）の第6分科
会（青年技術士懇談会主催）への参加」と「北海道
の取り組みを紹介する展示パネルの作成」を行う予
定です。

②（仮）ニッポン・テクノツーリズム構想の推進

先に紹介した中部青年技術士会・創立20周年記念
例会において、当会から、「（仮）ニッポン・テクノ
ツーリズム構想」を提案し、各支部より賛同を得ま
した。

この構想は、全国各地の技術者や技術士が取り組
んできた事業や成果を、新しい観光資源（テクノツ
ーリズム資源）として捉え、各地の青年技術士系組織
が連携して、その情報を収集・整理するとともに、
具体的なツーリズム活動を展開する、というもので
す。

今後、本部・各支部の幹部により推進協議会を立
ち上げ、実験的な取り組みに着手する予定です。

【その他】

もちろん、“青技協新体制の結束を継続する”ため
の日ハム観戦ツアーが随時、企画・実施されるはず
です。

また、秋には、「（仮）ニッポン・テクノツーリズム
構想」を具体化するツアーの実施を目論んでいます。

3 最後に

幹事相互のコミュニケーションも深まり、幹事会
後の懇親会などは、“幹事の〇〇さんにおめでたいこ
とがあるようだ”などという噂と妄想が飛び交いま
す。

一方、ある幹事に「業務に忙殺される内、次々と
反応がある。青技協幹事のみなさん及びメーリング
リストの力ってすごいですね!」と言わしめるくら
い全幹事が積極的に活動してくれています。

参加者の1人1人が、とにかく楽しみながら、
ちょっとした緊張感とリアリティを持って活動して
いる、そんな環境づくりを心がけたいと思っています。

（文責：青年技術士協議会幹事長 今野 亨）